

第5回 大月短期大学基本問題審議会

日時：令和7年11月17日(月)14時00から15時40分

会場：大月短期大学 L号館 1階会議室

出席者：

審議会 委員	入倉委員、大霜委員、相馬委員、竹下委員、永久委員、奈良委員、日野田委員 (安藤委員は欠席)
大月市 (事務局)	坂本総務部長、(以下企画財政課)杉本課長、三木主幹、福嶋主任、紫村主事 (以下短大事務局)小川事務局長

本日の次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 答申(案)について
 - (2) その他
3. 閉会

1. 開会
 - ・三木主幹より開会が宣言された。

2. 議事
 - (1) 答申(案)について
 - (2) その他

本審議会条例第6条第1項の規定により、会長が議長になるとされているので、ここからは大霜会長により議事進行された。

以下より、議事

(1) 答申(案)についての説明

委員長	次第のとおり、まず議事1の答申(案)について事務局より説明をお願いします。
事務局	答申(案)1. 危機感の共有について説明。
委員長	今回ご提案いただいた答申案の全体のとりまとめについて、ご説明をいただきました。具体的に説明があった、4ページ5ページの危機感の共有についてご意見ご質問等があればお願いします。
委員	大月短期大学在籍者数の推移のところで、1年生と2年生の数が普通であれば1年生の数が次の年の2年生の数になるかと思いますが、1年生の時の数より2年生の数が多くなっているのはどういうことですか。
事務局	留年生がいるので、このような人数になっています。
委員	地域連携協議会の件で、事前に事務局に話をさせていただいた件で発言させていただきます。大月短期大学の運営委員会条例の中に審議事項が定められています。予算決算から学則、学科の増設廃止、定員等、大学教員の人事に関する事項を除く大学運営に関する重要な事項が審議事項となっています。ここを活用すれば、今回謳っている市民への広報活動を含めた委員会運営が出来るのではないかと思います。運営委員会の構成員は、市政関係者、大学の教職員、学識経験者、大学後援会関係者となっているので、ここを拡充すればここで謳われていることが出来るのではないかと思います。組織をいくつも持つということは、運営上大変になるので、ここを一つにまとめたらいいのではないかと思い連絡させていただきました。
事務局	運営委員会を活用出来ればと思いますので、短大事務局と相談しながらそう出来ればと思います。
委員長	ありがとうございます。いかかでしょうか。
事務局	問題ございません。
委員長	そのように取り計らうということでよろしくお願ひいたします。他いかがでしょうか。
委員	5ページの共有すべき内容の3つ目の大月短期大学が地域にもたらす教育的・経済的・社会的価値ということで、経済的価値は何となくわかりやすいと思いますが。教育的価値と社会的価値はどのように表現するのかイメージが付かないで、もしこのように表現するということがあればお知らせいただけるとありがたいです。
委員長	事務局の方で何かご意見ありますか。
事務局	ここはのちに繋がってくる地域教育センターのことをイメージして記載した

	ところでございます。教育的というところは教育機関であるので、あえて書かなくても当然であるというところは正直あります。社会的という意味では、地域に根差したという意味があるところを強調したいというイメージであります。
委員	三つに分かれているので具体的に何かがあるのかと思っていましたが、最初に書いてあるような地域に価値をもたらすということを三つに分けて書いたということ理解しました。
委員長	他にありますでしょうか。危機感の共有の説明は以上にしますが、また最後まで終わった段階でまた意見があろうかと思いますので、とりあえず先に進めさせていただきます。
事務局	答申(案)2. 大学の新しい魅力づくりについて説明。
委員長	部分的に訂正するところも含めましてご説明がありました。これについてご意見ご質問等あればよろしくお願いします。
委員	「優秀」を「戦略的に」へ変更することは良いとして、その形容詞がどこにかかるのかがわからないと判断しました。留学生が戦略的なのか、体制が戦略的なのかその辺りを考えないといけないのではないか。これだと戦略的な留学生を受け入れるということになります。留学生受け入れの戦略的な体制の整備だとしたらわかります。
委員長	それに対していかがでしょうか。
事務局	おっしゃるとおりですので、そのように変更いたします。
委員	編入学の強化というのは本音としてはそのとおりだと思います。一方で、これを公立の学校の大義名分はどうなのかというところは前からお話ししているとおりですので、この大義名分をきっちり説明する必要があると思います。また、それと同時に編入学を強化するということに繋がるべき新たな教育プログラムでないといけないと思いますが、どういうプログラムが編入学の強化に繋がるのか、そのあたりが不明瞭というか欠落しているような気がしますが、そのあたりどのようにお考えでしょうか。
事務局	これを作るに当たって前から一番悩ましい問題だと思っておりまして、なかなか答えが出ないというところが正直なところであります。今回に関しては審議会の答申になりますので、極論を言うと右の意見も左の意見もあるのかと思っていて、それを調整して折衷案にして答申を出すというよりかは、両方の意見があつてもいいと思っています。編入学や他にもキーワードとして一点突破という発言がございまして、私もそのとおりだと思う反面、そうでない部分もやらなければならぬというふうにも考えております。まず大義名分は公立学校としてずっと迷っていて、大義名分が立ちづらいです。ただ、今までの歴史や学生にとって魅力があるというところが、

	<p>今までの流れで出てきているというところではあるが、大義名分は表現しづらいです。</p> <p>AIとの繋がりについても悩ましく、そもそも経済学科でAIの何を教えればいいのだろうと、エンジニアを作るようなことは出来ませんので、ここにあるようなリテラシーを上げるなど基本的なことになるかと思います。経済経営の授業にいかにAIを組み込むのかというところもあると思いますので、これは一つのご意見としていただいていて、編入学と組み合わせるとダブルスタンダードになるのではないかとずっと悩んでいたところで繋がりというところでは書き方が難しいと思っています。今の段階だと編入した先にも学生の学びやその後の就職等がありますので、編入学に特化しているから、他のことが必要ないということにはならないので、そこら辺を何か書けばと思いますが、今の段階ではすごく難しいところを突かれて困っている状況です。</p>
委員	<p>この点については前回の会議での私の発言を参考にしていただければ思います。この部分を整理しておかないと、ここがキーだと思います。AIの方法というのは矛盾することではないので、両論併記という話ではないと思います。今度強化する部分がいかにロジカルに公立学校として大義名分が立つかどうかがとても重要なポイントで、私学であれば全然問題がないが、公立である理由、つまり、市民がお金を出しているので、そういう人たちがお金を出す理由がわからないと単純に財政的なところを何とかしようとしてその方向に進んだというふうに理解されるのではないでしょう。これからのことかもしれません、今後とても重要になると思います。</p>
事務局	<p>正直言ってぐうの音も出ないほどそのとおりだと思っています。前回の議論については確認させていただきます。矛盾しているものだとは思っていないが、一点突破を考えた時に本当にそれでいいのかという議論があるので、もう少し書き込んで繋がっていくようにしていきたいと思います。</p>
委員	<p>私自身はこれでストーリーが出来ると思うので、そこをもう一度お考えいただければと思います。この編入学が差別化できる一番のポイントだと認識しております。AIやデータリテラシーはどこでもやっているので、これは当たり前に基本的なこととしてやるべきだと認識しています。差別化を図るなら編入学だと思っていますが、ここの大義名分がきっちり作れないとさつき言った話になるのではないかと思います。</p>
委員長	他にご意見ありますか。
委員	<p>委員の話を受けて、皆様が親であつたらこの学校に入れたいと思いますか。編入学が強いと言っている学校って何の学校なのかと思いませんか。私だったら自分の子どもを入れません。やるのであれば、元々経済学</p>

	<p>科が強いということを前提に単科大学と謳っているのであれば、もう一度経済をやって、それにAIを掛け合わせて、どこでもやっているかもしれません、山梨県でトップの学校を目指します。そこで学びが足りなかった学生を編入学でさらに良いところに入れさせるというところまでやるのであれば、子どもを入れさせるのもいいと思いますが、今の話であれば、進路指導の先生もなんでここに入れなければならないのかと思います。厳しいことを言うとすれば、一生懸命作っていると思いますが、客側の立場からしたらこれではなにも刺さらないので、逆の立場で見た方がいいと思います。言っていることは正しいので、大義名分とストーリーの流れだけは気付けた方がいいと思います。良いことをやっているからもっと勉強させるために編入をさせると言った方がいいと思います。腹の内と見せ方は変えた方がいいと思います。</p>
事務局	私たちは今までの歴史やこれまでこの短大が編入学で持ってきたというところが固定概念としてあったのではないかと思います。今おっしゃったとおり、編入学が目的ではなく、あくまで学びが足りなかった部分を編入学で補うというところが私としても考え直さないというふうに思いました。
委員長	他にご意見ありますでしょうか。
委員	確かに編入学の観点も重要でありますし、大月短大にとっては強みだと思いますが、今の発言にもあったように大学に来て4年制大学に入るための学びだけというのは実に寂しいと思います。前にも話したとおり、特別聴講生として授業を受けさせてもらっています。その中の授業では学生たちが真剣に学んでいて授業前と授業後に教授とディスカッションをして学びを広げています。これが本当の大学の学びなのではないかと思いました。学生たちのコメントペーパーの中には私もすごく視野を広げられるようなものもいくつもありました。そういう意味でいくと、そのことこそ大事にしなければならないのではと思いました。そこを教授会に要望をしてもっと質の高い授業を行えるようにして、教育研究機関としての大学の存在価値を高めていけたらいいと思いました。これを広報するのは難しいとは思いますが、どこの大学もそういう広報をしていますが、やはり人数の少ない短大であれば、卒業生が今の大学生が卒業して学校へ訪問して、生にその話をするという取り組みも含めて、ある程度の前進が図れるのではないかと思いました。
委員長	他いかかでしょうか。 編入学というのは、大月短期大学が持っている過去からの強みであり、それは公立の短期大学で編入学を目標にするのはいかがなものかというの腹の裏側にありました。卒業生のコメントにも4年制大学に入れなく

	<p>て、それを取り返して4年制大学にもう一回行くという思いがあつて、出身地の国立大学に行かれる方が多いというのはそれなりの事情があるのだと思います。逆に言うと、70年の歴史を持っている大月短期大学で過去の実績として、そういう事実があるということはアピールの仕方だろうと思います。私も特別聴講生として授業を受けていますが、私と比べると、学生はすごく真面目で、一生懸命勉学に励んでいる姿を見ると、自分の学生時代はなんだかと反省しながら聴講を受けています。そういう学生が多くいるなかで、就職も一つの選択肢、編入学も一つの選択肢だと思いますが、過去の実績からすればそこに強みがあるというよりも、この考え方のあり方の一つとして説明可能であるというふうに思います。ただ、公立の学校であるので、そういうことを全面的に言えるかどうかということについては、忸怩たる思いはありますが、事実として、過去のこういう実績があるので、これからも学生の学びをどう支援していくのかということはやってみたいという短大の大きな資源として、そういう形があつても良いかと思います。文章表現になるので、予備校に行かなくても、短大に来れば4年制大学に行くというニュアンスが入ると、変になると思うので、その辺のストーリーを上手く書ければ、特色のある公立短大という意味合いは未来に向かって発信できるのではないかと思っています。ただ、先ほどお話をあったように、新たな教育プログラムが編入学のためというふうなニュアンスで見られてしまうと、それはおかしいので、その辺は各委員さんからご指摘をいただいた内容を十分加味しながら、新しい魅力ということを過去の実績プラス新しい魅力をストーリーとして書けばと思いました。</p> <p>各委員からご指摘いただいたことは、大学の新しい魅力づくりとは何かということ、過去をそのまま踏襲して云々ではなく、新しい魅力としてそれを作り直して、山梨県で一番なのか、日本で一番なのかの公立短大を目指すくらいの気概が表現できるといいと思うので、そこら辺を酌んで表現をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>新たな教育プログラムのところで、AIについていくつか記載をしていただいているが、プログラミングについては、今後AIの世界ではAIが全部やってくれるなかで、プログラミング自体を時間かけて学ぶことはあまり有用ではなくなってくるという時代が来るという見方でいるので、外した方が良いという話をさせていただきました。AIを言い続けていますが、人口減少を主とする地域課題がたくさんあると思いますが、それらの解決の一番の近道がこのAIであると思っています。私がいる経済界では、今、中小零細企業などの弱小の企業ほど人手不足で非常に困っているという現実が</p>

	<p>あってその解決策が見出せないです。大手企業は高額なお金を出して、優秀な人材を採用することが出来ますが、中小ではそうはいかず、情報もないので人も採用できないという非常にマイナスな状況ばかりが続いています。それを解決するテクニックとしてAIを活用して、より効率化をして、人が少ない中で効率的に生産性を上がるやり方をする中で、何とかカバーしていくということがこの中に見出せる可能性が少しづつ出てきているというのが、私の感覚であります。AIを使うというのは、大企業だけではなく、中小零細企業も1社1人くらいAI人材たる者がいても然るべきだと思います。そうなると圧倒的に現在AI人材が不足しているので、こういう専門的な大学を作つて、そこで育っていくということが非常に有用だと思いまし、地域の企業にとっても非常に身近にそういうことを教えてくれる場所があるのは有効だと思いますので、そういうことを含めてやつたらどうかという提案でございます。</p> <p>さらに編入というところについても、基本はここで学ぶだけではなく、出口としての就職時に東京などの大都市の大きなAI企業と連携をして、この短大で学んだ優秀な学生を送り込むというような提言をしながら、この大学で学んだら良いIT企業にも入れるというようなルートを作りながらやっていくと、人の確保もすごく楽になると思いますし、東京からも人が呼べると思います。就職で東京の大手企業にも就職できるというようなルートを作るということ、さらに、AI学科は今後色々な大学で出てくると思いますが、データサイエンスはどちらかというと理系ですが、これからはAIは文系的な営業的な感覚も含めた学部になると思います。そういうところでも連携を取りながら、2年間大月で学んで、その後4年制大学の学部に編入など、今後探していく中で色々な可能性が出てくることも含めて、今の段階で他がやっていないことを先んじてやることが大事だと思いますという新たな教育プログラムにあるAIのところの提案でございます。</p>
委員長	ここが売りになるところで、期待値に応えるキーポイントかと思われます。
委員	直接的な内容からは離れてしまいますが、例えば、編入もMARCHと言われる大学群からの推薦があるとするならば、非常に魅力的な進学先になるかと思います。今調べたところMARCHからの指定校はないです。何か大学側に働きかけをして、編入の指定校推薦がもらえるのかわかりませんが、パイプを作つてそういう進学先を増やして、うちはこういう指定校があるというところをアピールできると、浪人するくらいなら大月短期大学に行って有名私立大学に入れたとなると、それはそれで魅力の一つになるのではないかと思いますので、そういうアプローチをしても面白いのではと思います。大月短大が無くなると、この街から400名の学生がいなく

	なってしまうことになるので、街の活気が消えてしまうと思うので、大月短大の魅力をPRして残していくのは市民とすれば必要なことだと思います。一方で、そういう有名私立大学への進学実績が出来ればありがたいですし、大月市の企業も本当に人がいないので、企業ともっと関わりを持ってもらい、企業のリクルートに役立てると、大月市の住民も大月短大があつてよかったですと思えるのではないかと思います。編入というキーワードの中でそういう有名私立大学とパイプを作っていくことや学生の進学先の選択肢として、浪人をするのだったら大月短大に来てもらうアピールをしていく必要があると思いました。
委員長	事務局の方で議事録を取っていると思いますので、先ほどのお話もありましたが、AIもこれから必須アイテムとして関わっていくということになれば、そこを強化していくということであれば、委員のお話にあったように、一つの魅力を作ることに繋がるだろうし、今おっしゃったように、そういう人材が大月市から育っていくことが、大きな力になろうかと思いますので、積極的に働きかけて編入先として確保していくなどこれからどう戦略的にやっていくのかということで、戦略室となるものの提案もございますので、審議会の議事録を戦略室の人たちが読む中で、こういう意見にはこのような背景があるということが分かっていくのではないかと思います。
委員	地域研究センターのところですが、企業側が欲しいと思う人材を育成しないとなかなか指定校推薦ももらえないです。高尾にタカオネという施設があるのを知っていますか。ここはRプロジェクトが手掛けて、今飛ぶように予約で埋まっています。IT企業はリトリートとしてその合宿所で研修をするということが流行っています。タカオネに行くか、千葉の改装したところでやっています。それこそこんな施設があるので、長期休暇の時に企業に使ってもらえばいいと思います。そこでボランティアとして短大生に手伝ってもらうことで、企業側がここ学生は質がいいと気づいてくれると思うので、そうすると最近はリクルートマーケットが崩壊しているので、青田買いの方向に進んでいます。地域研究センターだけではなく、地域に開けた研修センターも兼ねて、長期休暇の時は稼働率が低いと思いますので、その時を使ってやればいくらでも研修はあるので、その一言を書くだけで違うと思います。
委員長	今おっしゃられたことを書き加えたり、工夫したりしてみてみるのも良いと思います。 大学の新しい魅力づくりについては、この答申案に書ききれない部分もあるかと思いますので、各委員からいただいた意見の議事録等も参考に思いをうまく表現できるように、事務局と最終的には私の方で調整させてい

	<p>ただきたいと思います。</p> <p>では、3点目の経営責任の明確化及びガバナンスの改善についてご説明をお願いします。</p>
事務局	答申(案)3. 経営責任の明確化及びガバナンスの改善について説明。
委員長	今KPIからスケジュールも含めてご説明いただきました。何かご意見ご質問等がございましたらよろしくお願ひします。
委員	<p>地方独立行政法人化に関しましてはすごくいいことだと思います。この書きぶりだと後々揉めるかと思ったので、「教授会が実質的な決定機関になっている現行の仕組みでは」という書き方では、悪の根源が教授会みたいに見えててしまうので、これにすると今後改革するときに猛反発を食らうので、ガバナンスが機能していなかったという雰囲気にしておいた方がいいと思います。特に大学の先生は字を読むのが好きなので、これを見たら反発してくる可能性があるので、変更した方がいいというのが一点目です。</p> <p>二つ目は、独立行政法人になるということは事実上私学になるということなので、お金の計算をしておいた方がいいと思います。ここの学校の建物の評価額はいくらになりますか。</p>
事務局	評価はしていないです。
委員	<p>この学校は定員が400人で、一人あたり100万円で計算すると入りが4億円になります。私学の経営指標として人件費が大体55%、管理費が25%、減価償却費が大体20%から25%とすると毎年8千万円くらいしか積めないです。減価償却を仮に47年とすると30億円程度しか投資出来ないです。この建物を全部足したら30億円を超えるくらいになると思います。延べ床面積を見ておそらく100億円規模になると思うので、そもそも独立行政法人にしても破綻します。それをどうやって軽くするのかということを先に考えておかないと、勢い余って独立行政法人化した某北陸の国公立大学は既に破綻しています。建物をどう維持するのかと、人件費をどう削減するのかを先に考えておかないと自滅するという話は良く起ります。うちの学校法人も自滅しかかっていますが、1から全部組み直しました。ここは最初に計算をしておいて、30年後40年後の見通しを立てていた方がいいと思います。</p>
委員	<p>おっしゃるとおりだと思います。KPIのところがありますが、その前にKGIのように、どうやったら経営が成り立つかという目標値みたいなものをきっちり記することで、今の話の計算をしないとそういうことが出てこないと思うので、その中でそのKGIを達成するためには、KPIがあって、それがKPIに繋がらないといけないので、この個数でいいのかも考えていくこと</p>

	必要になると思います。独立行政法人化についても委員の言うとおりだと思います。
委員	この話をするうちの学校に痛手が来るので言いたくないのですが、短大で続けるべきなのか、4年制大学にするべきなのかも議論するべきだと思います。正直に言うと、減価償却を独立行政法人化してやろうとすると、単年度で売上10億円は無いと無理です。5億円くらいでは、物価水準の変更に追いつかなくなるので、回収しきれなくなってくるということを議論の俎上に上げないと、公立短大で公が持っているのであれば持つが、これが独立行政法人化すると厳しいところがあります。
委員長	他にどうでしょうか。
委員	そこを議論する意味でも、大学戦略室できっちり議論されるものであると思いました。
委員長	この答申にこれまでに様々な意見や議論があるなかで、おそらくここに書いてある市直轄の大学戦略室に、各委員からいただいた話の内容が伝わっていって、ここで何をするのかという目安になる取組が出てくると思います。それを具体化しないと結局新しいものを作っても、前回の会議で委員がおっしゃった最後は執念に近いものをこの大学戦略室が持つて取り組んでいかないと答えが出てこないというような状況も想定されますので、その辺の書きぶりを含めて思いが伝わって、市の直轄の大学戦略室を即時設置するということになれば、職員に投げられる課題というのは答えがないような取り組みをしなければならないという場面も当然出てくると思いますので、そのような伝え方をしていただければと思います。 他いかがでしょうか。
事務局	独立行政法人化の検討については何とかしなければならないという中の手法論であると思っています。ガバナンス体制の構築をしないといけないということを初回から言われておりましたので、当然私たちも同じように問題意識をして持っております。そのガバナンス体制の構築するために、まず独立行政法人化して、先生たちが公務員という身分ではなくなることが重要ではないかというところから、独立行政法人化という話が出てきましたが、委員がおっしゃっていた執念や先生たちと膝を交えて個々に話合うなどそういう手法は独法化しなくても出来るという話は私たちもしておりました。そこに行く付くためには独法化が一番わかりやすいという手法論として出させていただきました。お恥ずかしい限りですが、勉強不足の部分もあり、会計の部分については疎いところがありまして、今の意見を聞いて市長がどう思うのかはありますが、私としてはここに書いてある独立行政法人化の検討はやる前提の話で進んでいました。ハレーションが

	起こるので検討という書き方をさせていただきましたが、むしろ、今の話を聞いたうえではもう少し慎重に、そして迅速に検討しなければいけないというふうに思いました。検討と書くことでグレードダウンしていたが、今回の話で本当の意味での検討をしていかなければならぬと思いました。重要なところだと思いますので、市長なにかありますでしょうか。
小林市長	委員がおっしゃっていた膝を突き合わせてその方たちの意識を変えようとか、今のものを改善しようとか、それを議論の中で戦わせてそういう姿に持つていけるかという時に、それだけの技術力や話術、施徳力を持つような話し合いが私には難しいと思ったなかで、何かきっかけがない限り先生たちの意識を変えるということは難しいものだと思っています。そこで、独立行政法人化というものをきっかけに、経営責任の明確化が出来ることによって、経営面を考えたうえで権限を持ってもらうことを考えていて、独立行政法人化のメリットばかり考えていました。この資産価値はどのくらいなのかという根本的な質問に今まで計算をしていないので、その大きさを考えたうえでないと、今の大月短大の魅力は何と聞かれたときに、いつも公立短大であるということの学費の安さというものを売りにして、学生の募集を行っていて、そして編入が出来るということで学生も集まってきた。しかしながら、独立行政法人は私学と同じであると考えたときに今と同じ学費で経営が出来るのかを感じました。その辺も入りがいくらで、出がいくらで、考えたうえで、学校の魅力をPRすることが出来るようにならないといけないということを今更ながら気づかせていただいた次第で、非常に恥ずかしい限りでありますが、このまま公立で持ち続けることは考えていく必要があると思っています。そういう意味で大学戦略室というものが非常に大切だと思った次第です。
委員長	他になにかご意見ありますでしょうか。
委員	このまま独立行政法人化をしても数年後には厳しい状況になると感じています。現状でもものすごい勢いで人口減少をしていますが、さらに進んでいけば、さらに学生数が減って奪い合いになると思います。MARCHクラスでも営業活動を行って学生を集めようとしているので、その中で学生を集めるのはさらに厳しくなると考えると、さっき色々ポイントがあったと思いますが、学生だけではなく地域の人たちが学ぶ場所や、企業の研修の場としてお金を稼ぐなど、そういうことを含めて合わせ技でやっていくことをある程度想定しながら、この答申書を出すと同じくらいのスピード感で考えておかないと、答申を出したはいいけど、やろうとして検討を始めたら全く数字が合わないという話だと市長の顔に泥を塗ることになってしま

	ので、それも併せてスピード感を持ってやっていく必要があると思いました。
委員	スケジュールのところで、6月ホームページのリニューアル着手、7月Youtubeのリニューアル着手、10月SNS着手とありますが、最初の時に出来るところからスピード感を持ってやってくださいということをお願いしてこのように記載をしていただいたところ、心苦しいところはあります、ストーリーが大事になってくると思います。SNSは着手したばかりかと思いまして、ストーリーをよく考えて一貫性がないと発信しても単発で終わってしまうと思います。今後SNSは一回作ればいいものではないと思っています。コンスタントに投稿していく必要があるので、ストーリーを大事に組み立てていただいて、コンテンツの作成をしていただければと思います。着手も可能であれば、今後どのようにSNSを発信していくのかというところをまずじっくり検討したうえで、ストーリーを考えてコンテンツを作っていくことで実効性も上がってくると思います。
委員	今の意見に関連して、ホームページのリニューアルについては未だにマスクをしている状態であったので、早く変えるべきだという意見を述べさせていただきました。ストーリーを作つてからでは遅いので、変えられるところは変えていくという方法だと理解していました。こうしたもののはずっと変えていかなければならぬので、ストーリーが出来たら作り直すという覚悟が必要かなと思います。Youtubeにしても、ホームページにしても、SNSにしても、書かなくてもいいのですが、誰がどのように作ったのかというのが、ここ書き方だとわからないです。私自身もメディアの中にいた人間の一人としてここはすごく神経質に作っています。それに詳しい人間にお願いをして、この作り方はなにをどういうふうに表現していくのか、見え方やコンテンツを全部プロに相談しながら作っています。それでも十分ではないという認識であるので、着手して公開するのはいいのですが、どのような使い方をされているのかをお伺いしたいところでした。
事務局	Youtubeについては、丸投げではないですが、外注しております。SNSについてもプロに頼んでおります。
委員	外注をすればいいという話ではないです。中にいる人間と外注先とでそのコンテンツを煮詰めていく必要があってそれをやられているかどうかです。
事務局	丸投げしているつもりはありません。先ほどストーリーの話がありました、私たちも外注するうえで、本当にその人と話が出来るかどうかは気にしますが、やはり相手もプロだと思うと相手の意見に納得してしまうことが多く、何が正しいかよくわからない状況の中で話をしているところも正直あ

	<p>ります。ただ、外注先が必ずしも腕が立つ人とは限らないので、手探りの部分はありますが、それはやってみないとわからない部分もあります。そういう意味でもノウハウを蓄積していく部分も正直それでは遅いとお叱りを受けるかもしれません、逆に言うと一朝一夕で出来ないと思ってるので、外注の際は当然うちも入って一緒にやっています。その事業者がちゃんとやってくれるか正しい方向に行くかということを考えながらやつております。</p> <p>もしよろしければ、今後審議会委員という肩書が外れるかもしれません、思い出したときに見ていただいて何かアドバイスがあったら、前にも商売敵だというところもありましたが、これでは駄目だという時があればご助言いただければ大変ありがたいというふうに思っております。今は頼んでいますし、一緒に考えていますが、それが完璧かはわからない状況です。</p>
委員	<p>委員の意見に同感です。YoutubeもSNSも業者に頼んで作ることは簡単に出来ますが、作るのが目的ではなく、どうやったら効果的に出来るのか、そこに魂が入るのかというところで、生きるか生きないかが決まってくると思います。お金はかかるかもしれませんが、手っ取り早くやるのであればそういうのに長けたコンサルをいれることや、そこまでお金がかけられないのであれば、職員がそういうセミナーに参加したりなどして効果的に気持ちを込めて作っていくように業者に指示が出来るような人を育てていってもらいたいと思います。</p>
委員長	他いかがでしょうか。
委員	<p>高校の時に一ヶ月に50万ビューくらい見ていただいた時がありました。当時最初に行ったときは1000ビューくらいでした。例えば私がホームページを作るのであれば、某有名人のホームページのような作りにしようかと思います。HTMLそのままのホームページにするくらいしたら話題性が出ると思います。プロがやるとどこの学校作っているようなホームページになります。そこでえてそういうホームページにして、うちにはお金がありません、立て直しをすることで手伝ってくれと言ったら逆にネット上でバズると思います。そしたら手伝いたい人たちが集まってくると思います。偏差値関係なく優秀な人が来ることがあるので、手段と目的が逆になつたら絶対に駄目です。</p> <p>あとグーグルアナリティクスは入れていますか。グーグルアナリティクスはどこからアクセスしてその分析が書けるソフトがあるので、それに長けた人間も意外と少ないので、そこ辺で毎日作り直すことが大事です。面白かったのが高校は部活の高校だと騒いでいたのに、職員会議で調</p>

	べてくださいと言ったら誰も部活というワードを調べていないことがあったので、意外とみんな何も知らないので、分析をしてデータに基づいてアプローチをかけて、あとホームページはダサい方が今流行ります。おしゃれなホームページはみんな見慣れてしまっているので、勇気を出して振り切って逆張りをするのも良いと思います。
委員	ホームページも標準化してしまっているので、戦略を色々考えた方がいいかと思います。
委員長	<p>貴重な意見ありがとうございます。そういう意味ではスケジュールにもあつたようにもう着手をしているというのは、この審議会が本当は来年の答申であったものを、こういうことは早めにやった方がいいというような意見の中で行政側にてタッチしてくれたと思っています。興味があるというのは必ずしもみんなと同じではないというのが多いというのも事実だらうと思います。外注するにあたってもここで貴重な意見が出たので、特色のある短大のホームページやYoutubeにしてくださいというのも希望に据え置いて取り組むのもいいだらうと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>スケジュールのところで令和8年4月に地方独立行政法人化に向けて大学戦略室(仮称)設置となっているが、法人化のための大学戦略室を設置するという形になってしまふと11ページと合わなくなってしまうのでは、そこのスケジュールは直した方がいいと思います。</p> <p>今回各委員の貴重な意見を答申に向けてまとめつつあるわけですが、ぜひ思いを強く持って、気持ちとしては日本一の短期大学として短期大学にこだわってみたいと、4年制大学全入時代と言われていますが、逆に短期大学というものの存在意義を発信して、ピンチだからこそ発信できるような思いを強く持った戦略を描ければというふうな個人的な意見を持っています。</p>
委員	<p>細かいところですが、市からの繰出金や繰入金という言葉遣いをどこから見るかで変わるとと思いますが、統一した方がいいと思います。教授会云々のところでガバナンスが形骸化を招いていると書いてありますが、ここは「ガバナンスが」でなく、「ガバナンスの」に変更した方がいいと思います。</p> <p>スケジュールのところで大学戦略室を4月から作るとなっていますが、早急に作ると言って4月からだと私の感覚から言うと遅いという感じですがそのくらいが早いのでしょうか。</p>
事務局	大学戦略室を作るのに人員配置や人事異動がなければ出来ないので、今のところ4月の予定となっております。人がトータルで多いわけでもないので難しいところです。

委員	そこが難しいところではあります、これで比較にならないかもしれません が、うちの法人であれば兼務でも構ないのでプロジェクトチームを作ります。
委員	「責任の所在が曖昧であり、役割と権限が明確にされていない」というところがまさにこの状態であると思うので、具体的な対策で、「経営の自立性と責任の明確化」というところはただ文字にするのではなく、市長がどこまで明確にするのか、学長が責任者かもしれません、2年間でKPIが時効出来なかったらクビにするなど、そのようなこともある程度考えておかないと、全体的に厳しさがこの文章中に感じられないです。「実効性のある改革が進みにくい体制」も改革は勝手に進むわけではなくて、命がけでやるのが改革があるので、進みにくいという言葉も緩いのではないかと思います。実効性のある改革が進みにくい体制どころではなく、改革をやるには命をかけてみんなでまとめてやるみたいな危機感を言葉に込めないと厳しいというところがあります。 「改革案を作成する主体として明確化する」というところも何となく改革案を作成して、ガバナンス体制が整えば出来るということで文章が作られていますが、前にも言わったように、狂うぐらい一生懸命やる人がいて、実行部隊がそのぐらいやらないと実績が残せないと思うので、その表現は難しいかもしれないですが、ガバナンスを整えると同時に、日本一の短大にするという旗印のもと、みんなが一致して熱くなるようなことを謳つていかないと厳しいと思いました。
委員	地方独立行政法人化の検討とありますが、公立の短期大学をどのように形で地方独立行政法人に持っていくのか、公立でやっていて繰出金があるわけですが、独立行政法人を設置してそこへ頼むときに、繰出金がつくと思いますが、独立行政法人の大学のイメージが沸いていません。
事務局	繰出金については名称が変わって運営交付金という形になります。独立行政法人化すると、市で中期目標を立てて、それに対して独立行政法人が中期目標に沿うような中期計画を立てて4年間の収支表を出して、運営交付金が決まります。決まった金額を年度当初に出すのが一般的です。それで赤字のパターンの時は、存続させる必要があるなら市が出すという形になります。今までと変わるのは、建物を資産化して会計上変わってきたり、先生たちの身分が変わってきたりします。運営するにあたり、外からの見た目は何も変わらないかもしれません。ただ、先生の身分や事務局から派遣職員が出るなどそこは変わってきます。某大学は既にそういう状況になっています。特段新しいことはないです。短大でどのくらいやっているかわかりませんが、4年制大学ではそれなりにやっている

	と思います。大月市では中央病院が独法化しており、公立病院の中では早い方だったと思います。
委員	資産はあくまで市が持っているという形になるのか。
事務局	地方独立行政法人に移ります。ただ、市が100%出資ということになります。
委員長	<p>全体で何かご意見ご質問等ありますでしょうか。</p> <p>公立短期大学をどう魅力のあるものとして発信して、学生に選ばれて、伝統を重ねていく学校にするということは非常に困難なことだと思います。前回、委員が相当な覚悟と信念と執念を持って臨まないといけないとおっしゃっていました。答申案は答申案として出して、なおかつそれに伴う各委員の議事も当然資料として添付されると思いますが、それを読み解いていく、なおかつ自分の執念を盛り込んで改革を進めていくのは非常に難しい技だろうと思います。答申案は各委員のそれぞれの思いを持って困難な道を進んで、いい短大にしてくれという思いは共通していると思いますので、その辺も含めて最終的に答申をまとめないといけないので、どう日本語としてクリアにしていくのかが難しい課題です。言葉よりお互いにある強い思いが実現されるような形で取り組んでもらえればと思います。</p>

(2)その他

委員長	<p>これまで5回ご議論をいただいたわけですが、ここに書かれていることは各委員みんなの思いのエッセンスという形で、裏側には頑張ってくださいという思いとともに、叱咤激励も裏に入っていると思いますので、答申としていただいたご意見をもとに事務局と相談させていただいてまとめたいと思います。最終答申案は各委員にご送付さしあげることですので、皆様の目でプラスしていただいて、答申としてまとめさせていただければと思います。</p> <p>私も役所の人間として諮問と答申は一般的なことを答申すればいいと考えていた節もありましたが、この短大を本気で残すという強い決意を持って取り組まないと思います。</p>
小林市長	<p>今回の話の中で、編入学は一つの魅力だが、大月短期大学がどういう大学であったら子どもを入れさせたいか、こういう勉学が出来て、そこで学び足りない人が大学へ行って、もう少し勉強してみるという流れにしたらどうだという委員の話を聞いたときに、最初の審議会で委員がおっしゃったホームページの一番初めに大月短大はどのような大学なのかというわかりやすい文章を考える必要があると感じました。</p> <p>AIを活用した地域課題の解決についても、どのような流れがあるのか委</p>

員に聞いてみたいと思いました。

話は脱線しますが、ネパールに行ったときに、ネパールの社会課題は、水が汚いことやインフラが整備できていないので、そこを助けてほしいと言われました。そこでネパールから留学生を受け入れますというお願いをしてきましたが、大月短大に留学生が来た時にどういうリターンが出来るのか、どういう大学であれば大月短大に留学生が来るのかを考えた時に、大月の社会課題、日本の社会課題、外国の社会課題を解決するのがこの大学の特徴ですと設えた時に、この文章は何が適切なのか、地域なのか、社会なのか、国なのかそこに求められる大学像というものを何かアドバイスいただいて作りたいと思いました。ホームページの大学を表す文章をしっかり書くのが一番大きな課題だと感じたところです。審議会は終了しますが、各委員のご提案や知恵を拝借したいという考えがありますので、ぜひともご協力お願いしたいと思います。

日本一の短期大学に向けて、精一杯取り組んで職員一同頑張って参りますので、よろしくお願ひいたします。

以上、議事終了

3. 閉会